



Cisco Prime Collaboration 9.0 アドミニストレーション ガイド

2012 年 11 月 1 日

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Prime Collaboration 9.0 アドミニストレーションガイド
© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



CONTENTS

はじめに v

CHAPTER 1

Prime Collaboration の概要 1-1

Prime Collaboration Assurance 1-1

音声とビデオの Unified Dashboard 1-1

デバイス インベントリ管理 1-2

音声およびビデオのエンドポイント モニタリング 1-2

診断 1-3

障害管理 1-4

レポート 1-4

Prime Collaboration Provisioning 1-5

CHAPTER 2

ライセンスの管理 2-1

ライセンス ファイルの追加 2-2

CHAPTER 3

ユーザの管理 3-1

ユーザ ロールおよびタスク 3-4

CHAPTER 4

Prime Collaboration サーバの統合 4-1

CHAPTER 5

システム パラメータの設定 5-1

[Dashlet Label] および [SMTP Server] の設定 5-2

ログ レベル 5-2

CHAPTER 6

バックアップと復元の実行 6-1

バックアップと復元の概要 6-1

同じシステムでの復元 6-2

別のシステムでの復元 6-4

CHAPTER 7

ジョブの管理 7-1

APPENDIX A

ユーザ インターフェイス A-1

INDEX



はじめに

このマニュアルは Prime Collaboration のインストール、設定、および管理手順で使用する、Cisco Prime Collaboration 9.0 の複数の短いマニュアルの 1 冊です。

- ユーザ クレデンシヤルおよびライセンス ファイルを使用して Prime Collaboration サーバを設定します。
- Cisco Prime Assurance および Cisco Prime Provisioning を購入した場合は、これらを統合します。
- バックアップと復元の実行などのメンテナンス タスクを実行します。
- トラブルシューティングのログ ファイルを設定します。

対象読者

このマニュアルは、インフラストラクチャ ベースのリアルタイム コラボレーション サービス、たとえばビデオ (TelePresence) やテレフォニー (VoIP) の設定、プロビジョニング、インベントリ、およびメンテナンス (エンドポイント、管理サーバ、サービス固有ネットワーク デバイスなどが含まれます) を担当する音声およびビデオのエンジニアを対象としています。

Prime Collaboration は仮想サーバに展開されます。ユーザは、仮想サーバの設定と、CLI を使用する UNIX コマンドを理解している必要があります。

関連資料

このマニュアルは Cisco Prime Collaboration 9.0 の複数の短いマニュアルの 1 冊です。Prime Collaboration に関するその他の作業、たとえばユーザ管理、デバイス管理、音声プロビジョニング、ネットワーク モニタリング、障害管理などを実行するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Documentation Overview](#)』に記載されている、すべてのマニュアルのリストを参照してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CHAPTER 1

Prime Collaboration の概要

Cisco Prime Collaboration は包括的なビデオおよび音声サービス保証および管理システムであり、エンドユーザーに一貫して高品質なビデオおよび音声のコラボレーション体験を提供するためのモニタリング、トラブルシューティング、およびレポート機能が備えられています。

Prime Collaboration の特性は、次のとおりです。

- ユニファイド コミュニケーション システムにプロビジョニング、モニタリング、診断、およびレポート機能を提供します。
- タイムリーなエンドツーエンド可視性をサポートし、セッション（コール）、エンドポイントおよびネットワークの音声およびビデオ関連の問題の切り分けを行います。
- サービスに影響を与える問題をトラブルシューティングし回復するまでの時間を短縮します。
- 重要な障害およびパフォーマンスの統計情報とともに、メディア（音声およびビデオ）パスの詳細な分析情報を提供します。これにより、サービス低下の原因となっているネットワーク デバイスを特定できます。
- Cisco Collaboration システムおよびサービスとネットワーク インフラストラクチャ デバイスの包括的なインベントリ、健全性、ステータスを利用して、大規模な導入の検証を行います。
- オペレータが使用率および問題履歴を追跡できるレポートを配信します。

Prime Collaboration には、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の 2 つのソフトウェア パッケージが同梱されています。これらのソフトウェアは、2 つの異なる仮想サーバに展開する必要があります。

Prime Collaboration Assurance

Prime Collaboration Assurance では、ネットワークをモニタし、診断を実行できます。また、問題の原因の特定に役立つレポートを実行できます。

音声とビデオの Unified Dashboard

Prime Collaboration ダッシュボードは、音声およびビデオ コラボレーション ネットワークのエンドツーエンドのモニタリングをイネーブルにします。次の概要が提供されます。

- [End-User Impact] : 電話ステータス、音声品質が低下し、コールが失敗した場所、アラームおよびコール品質イベントの TelePresence エンドポイント、アラームが設定された進行中のビデオセッション。
- [Endpoint Utilization] : 上位 10 個の最も使用率が高いエンドポイントおよび低いエンドポイント、1 日、1 週間、4 週間の TelePresence セッション数。

- [Infrastructure] : 管理デバイス、会議デバイス、コールおよびセッション制御デバイスの健全性およびステータス。また、アラームが設定されたインフラストラクチャ デバイスの数とアラームが設定されていないインフラストラクチャ デバイス、使用されているビデオ ポート、およびトランクの数を表示できます。

Prime Collaboration サーバの展開後のダッシュレットの構成については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』を参照してください。

デバイス インベントリ管理

Cisco Unified Communications Manager (電話と TelePresence)、Cisco VCS (TelePresence)、CTS-Manager (TelePresence)、および Cisco TMS (TelePresence) に登録されているすべてのエンドポイントを検出して管理できます。エンドポイントの管理に加えて、マルチポイント スイッチ、アプリケーション マネージャ、コール プロセッサ、ルータ、スイッチも管理できます。

検出の一部として、デバイス インターフェイスおよびペリフェラルの詳細も取得され、Prime Collaboration データベースに保存されます。

Cisco Unified Management ソリューションを使用する場合、Cisco Prime Unified Operations Manager から管理対象デバイスをインポートできます。

検出が完了したら、次のデバイス管理タスクを実行できます。

- デバイスを、事前定義のグループとユーザ定義のグループにグループ化します。
- 管理対象デバイスの可視性の設定を編集します。
- デバイスのイベント設定をカスタマイズします。
- デバイスを再検出します。
- 管理対象デバイスのインベントリを更新します。
- 管理対象デバイスの管理を一時停止およびレジュームします。
- グループからデバイスを追加または削除します。
- デバイス アクセス クレデンシャルを管理します。
- 管理対象デバイスをエクスポートします。

エンドポイント インベントリ データを収集し、管理する方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Device Management Guide](#)』を参照してください。

音声およびビデオのエンドポイント モニタリング

サービス オペレータは、企業のすべての音声およびビデオ セッションについて、ネットワークにおけるサービス低下の原因を迅速に特定する必要があります。Prime Collaboration は、エンドポイント、サービス インフラストラクチャ、およびネットワーク 関連問題の具体的な情報など、エンドツーエンド メディア パスを詳細に分析します。

ビデオ エンドポイントの場合、Prime Collaboration により、すべてのポイントツーポイント、マルチ サイト、およびマルチポイント ビデオ コラボレーション セッションをモニタできます。これらのセッションは、次のいずれかのステータスのアドホック、スタティックまたはスケジュール済みセッションです。

- In-progress
- Scheduled
- Completed

- No Show

Prime Collaboration は、定期的に次の情報をインポートします。

- スケジュール済みセッションの管理アプリケーション（CTS-Manager および Cisco TMS）および会議デバイス（CTMS、Cisco MCU、および Cisco TS）です。
- エンドポイントの登録およびコール ステータスのコールおよびセッション制御デバイス（Cisco Unified CM および Cisco VCS）です。

音声エンドポイントの場合、Prime Collaboration は、Cisco Unified Communications システムの現在の動作ステータスを提供します。Unified Communication (UC) トポロジ ビューには、IP テレフォニー実装の論理トップ レベル ビューが表示されます。この論理ビューは、コール制御関係に重点を置いています。

UC トポロジ ビューには、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM)、Unity Connection のクラスタ、デバイス、ルート グループ、およびクラスタ内のルート リストが表示されます。関係がグラフィック表示されます。

UC トポロジ ビューを使用して、次の作業を行うことができます。

- IP テレフォニー構成の論理 UC トポロジ ビューまたは隣接 UC トポロジ ビューを表示します。
- 電話を検索し、UC トポロジ ビューに表示される IP コミュニケーション デバイスのサマリーを表示します。
- デバイス イベントを表示して対処します。
- 他の Cisco Prime Collaboration ツールを実行します。
- デバイスの管理ページを起動します。
- [Detach] オプションを使用して別のウィンドウを開き、クラスタ レベルでマップを表示します。

また、Prime Collaboration は、Cisco Unified Communications システムでサポートされているアクティブ コールを継続的にモニタし、コールの音声品質がユーザ定義の品質しきい値を満たしていない場合に、ほぼリアルタイムで通知を提供します。Prime Collaboration では、ローカル ダイヤル プランに基づくコール分類も実行できます。

IP フォンおよび Telepresence のモニタ方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』を参照してください。

診断

Prime Collaboration はビデオの問題を特定するために Cisco メディア ネットテクノロジーを使用します。メディア パス計算、統計情報収集、および合成トラフィックの生成を行います。

ネットワーク デバイスがメディア ネット対応の場合、Prime Collaboration は次を提供します。

- Mediatrace を使用したビデオ パスに加えてフロー関連情報。
- Performance Monitor を使用したネットワーク ホット スポットのすべてのトラフィックのスナップショット ビュー。
- ネットワーク デバイスからの合成ビデオ トラフィックの開始機能。IP サービス レベル契約 (IP SLA) およびビデオ サービス レベル契約 (VSAA) を使用してネットワーク上のビデオ パフォーマンスを評価します。

また、IP フォンの場合、Prime Collaboration では、IP SLA を使用してネットワーク内の主要電話の到達可能性をモニタします。電話ステータス テストは、次の内容で構成されます。

- テスト対象 IP フォンのリスト。
- 設定可能なテストのスケジュール。

- IP SLA 対応デバイス（スイッチ、ルータ、または音声ルータなど）から IP フォンに対して実行する IP SLA に基づいた ping。任意で、Prime Collaboration サーバから IP フォンへの ping。

ビデオおよび音声ネットワークのトラブルシューティング法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』を参照してください。

障害管理

Prime Collaboration は、ほぼリアルタイムで、迅速かつ正確な障害検出を実現します。Prime Collaboration は、イベントの特定後に、イベントを関連するイベントでグループ化し、障害分析を実行して障害の根本原因を判別します。

Prime Collaboration では、個々のユーザにとって重要なイベントをモニタできます。また、イベントの重大度をカスタマイズできるほか、その重大度に基づいて Prime Collaboration から通知を受け取るようにすることもできます。

Prime Collaboration は、アラームとイベントのトラップを生成し、トラップ レシーバに通知を送信します。これらのトラップは、Prime Collaboration サーバによって生成されたイベントとアラームに基づきます。トラップは SNMPv2c 通知に変換され、CISCO-EPM-NOTIFICATION-MIB に従ってフォーマットされます。

Prime Collaboration での障害のモニタについては、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Fault Management Guide](#)』を参照してください。

レポート

Prime Collaboration は、次の定義済みレポートおよびカスタマイズ可能なレポートを提供します。

- **Inventory レポート**：IP フォン、音声電話、ビデオ電話、SRST 電話、音声 SIP 電話、および IP Communicator インベントリの詳細を提供します。Inventory レポートでは、CTI アプリケーション、ATA デバイス、および Cisco 1040 Sensor に関する情報も提供されます。
- **Call Quality Event History レポート**：コール品質イベントの履歴を提供します。Event History レポートには、デバイスとクラスタの両方についての情報を表示できます。ユーザは、Event History を使用して特定のアラート、特定のイベント、特定の日付、および特定のデバイス グループを表示するカスタマイズ レポートを作成できます。
- **Call Quality レポート**：Prime USM がモニタしたネットワークの一部の音声送信品質を調査できます。Prime USM レポートには、設定されたしきい値を MOS が下回っていた時間、使用されているコーデック、および違反が発生したエンドポイントが表示されます。
- **TelePresence レポート**：完了セッションおよび進行中のセッション、エンドポイント利用率、および No Show エンドポイントの詳細を提供します。TelePresence レポートは、ご使用のネットワークにおける会議デバイスと、その平均利用率およびピーク時利用率のリストも提供します。
- **Activity レポート**：過去 1 ～ 30 日間にステータス変更のあった IP フォンおよびビデオ電話の情報を提供します。

さまざまなタイプのレポートおよびレポートの生成方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』を参照してください。

Prime Collaboration Provisioning

Prime Collaboration Provisioning は、Cisco Unified Communications の初期導入および実装をサポートします。初期導入のプロセスが自動化され、day-2 が追加および変更されます。さらに、個々の加入者の変更に対し、継続的な運用上のプロビジョニングおよびアクティベーション サービスを提供します。

Prime Collaboration Provisioning では、次を実行することができます。

- 電話、回線、ボイスメールなどの標準サービスを、加入者向けにオーダーできます。
- 加入者レベルの変更（電話や回線などに対する変更）や IP 通信レベルのインフラストラクチャ変更（新しいコーリング スearch スペースやルート パターンのプロビジョニングなど）に関するオーダーを作成します。システムで発生したすべての変更は追跡され、オーダー全体または加入者名別や ID 別に確認可能です。オーダーのレコードを調べると、そのオーダーを開始したユーザ、さまざまな処理手順の時間、オーダーの内容などがわかります。
- オーダー管理機能を委任できるので、サービスの追加、変更、または削除のリクエストを、これらのサービスを配信している音声アプリケーションの基礎知識がなくても、実行できます。

Cisco Unified Communication アプリケーションのプロビジョニング方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』を参照してください。



CHAPTER 2

ライセンスの管理


Prime Collaboration のライセンスは、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の機能およびエンドポイント数を保護し、イネーブルにします。Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の両方（またはスタンドアロン アプリケーションの場合、いずれか 1 つ）のすでにインストールされているライセンスの詳細を表示するには、[Administration] > [License Management] に移動します。

Prime Collaboration Assurance のライセンス

Prime Collaboration Assurance のライセンスは、エンドポイント タイプと数量に基づきます。エンドポイントのタイプによって必要なライセンスのタイプが決定され、エンドポイントの数によってネットワークを管理するために購入する必要のあるライセンスの階層および数が決定されます。

Prime Collaboration Assurance には、次のライセンス カテゴリがあります。

- ハイエンド、シングルコーデック エンドポイント
- ハイエンド、マルチコーデック エンドポイント
- ミッドレンジ エンドポイント
- マス エンドポイント

これらの各ライセンスにマッピングされているエンドポイントのタイプについては、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Quick Start Guide](#)』を参照してください。また、Prime Collaboration Assurance UI ([License Management] ページの [Administration] > [License Management] > [Show Endpoints] アイコン ) でエンドポイント タイプのリストを表示することもできます。

Prime Collaboration Provisioning のライセンス


Prime Collaboration Provisioning のライセンスは、機能ベース ライセンスおよびエンドポイント ベース (Prime Collaboration Provisioning のエンドポイントは、電話です) ライセンスをモデルにしています。Prime Collaboration Provisioning ライセンスには、購入時にユーザが使用可能な一連の機能が同梱されています。また、Prime Collaboration Provisioning は、エンドポイントに、イメージ ライセンスおよびスケール ライセンスに関するライセンスを提供します。

Prime Collaboration Provisioning Northbound Interface (NBI) とユーザのセルフケア機能はオプションです。したがって、これらの機能を使用するには、適切なライセンスが必要です。

イメージ ライセンスとは、Prime Collaboration Provisioning の購入時に 1 つ以上のスケール ライセンスとともに、必須であるライセンスを意味します。スケール ライセンスは累積的です。つまり、ライセンスを組み合わせると、サポートする電話数を増加できます。

ライセンス カウント

Prime Collaboration Assurance については、ライセンス カウントは、検出タスクを実行したら更新されます。たとえば、Managed 状態のエンドポイントの場合、エンドポイント タイプに基づくライセンス カウントは、検出の完了後、数分（約 5 分）後に更新されます。Managed または Suspended 以外の状態のデバイスはカウントされません。

[Prime Collaboration Assurance License Status] ペインの [Show Endpoints] アイコン  をクリックすると、エンドポイントおよびエンドポイントが属するライセンスのカテゴリが表示されます。



注意

エンドポイントの数がライセンス カウントを超えると、エンドポイントは Prime Collaboration Assurance サーバでランダムに管理されます。

デバイスの検出および管理の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Device Management Guide](#)』を参照してください。追加されていないエンドポイントが検出ジョブにリストされます。

複数の電話の IP アドレスが同じである場合、これらの電話は 1 つのエンドポイントとしてカウントされ、1 つのライセンス ユニットののみが使用されます。

Prime Collaboration Provisioning スケール ライセンスの場合、注文され、Unified CM と同期化されている電話（MAC アドレス）の数に基づいてライセンス カウントは更新されます。

Prime Collaboration Assurance での電話機カウント

- IP フォンがソフトフォンと同じ電話番号を共有している場合、Prime Collaboration Assurance はこのペアを 1 台の電話機としてカウントし、このため、1 つのライセンス ユニットとなります。
- 携帯電話は別にカウントされます。
- 音声ゲートウェイに接続されたアナログ電話機はカウントされません。

Prime Collaboration Provisioning での電話機カウント

- すべての電話機がそれぞれカウントされます。
- 音声ゲートウェイのアクティブなアナログ ポートは電話としてカウントされます。

ライセンス ファイルの追加

[License Management] ページ ([Administration] > [License Management]) で、次の情報を表示できます。

- [Type of license or Active Base License Installed] : 評価または基本。
- ライセンス カテゴリに許可されているライセンスの合計数および現在使用中のライセンスの数。詳細については、「[ライセンス カウント](#)」(P.2-2) を参照してください。
- [Expiration Date] : ライセンスの期限が切れる日付です。この値は、評価ライセンスのみに適用されます。
- [Northbound Interface Licenses] および [Northbound Interface Expiration Date] : Prime Collaboration Provisioning 用。

Prime Collaboration のライセンス ファイルの登録および入手方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Quick Start Guide](#)』を確認する必要があります。

まず、アドオン ライセンス ファイルを追加してから、単一デバイス ライセンス ファイルを追加する必要があります。任意の数の単一デバイス ライセンス ファイルを追加できますが、基本ライセンス ファイルは 1 回しか追加できず、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning に個別に追加します。

ライセンス ファイルを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 [Administration] > [License Management] を選択します。
 - ステップ 2 [License Management] ページの [License Files] で、[Add] をクリックします。
 - ステップ 3 [Add License File] ウィンドウの [License Type] で、[Assurance] または [Provisioning] を選択します。
 - ステップ 4 ライセンス ファイルをアップロードして、[OK] をクリックします。

新しく追加されたライセンス ファイル情報は、選択したライセンス タイプに基づいて Prime Collaboration Assurance または Prime Collaboration Provisioning の [License Status] ペインに表示されます。



- (注) 評価モードから実稼働にアップグレードする場合は、デバイスの再検出を実行します。デバイスの再検出の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Device Management Guide](#)』を参照してください。
-



CHAPTER 3

ユーザの管理

Prime Collaboration では、さまざまなタスクを実行できるようにする事前定義済みのアクセス コントロールを持つ、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の組み込みの静的ロールがサポートされます。

Prime Collaboration Assurance のユーザ ロール

ユーザ ロールは、ユーザがアクセスできるタスクの許可を定義するために使用されます。

次のいずれかのロールをユーザに割り当てできます。

- **Helpdesk** : ネットワーク ステータス情報のみ表示およびアクセスし、デバイスでアクションを実行したり、ネットワークに到達するジョブをスケジュールしたりすることはできません。
- **オペレータ** : すべての **Helpdesk** タスクおよびネットワーク データの収集に関連するタスクを実行します。ネットワークでの書き込みアクセス権を必要とするタスクを実行できません。
- **ネットワーク管理者** : すべてのオペレータ タスクおよびネットワーク設定の変更によって発生するタスクを実行します。
- **システム管理者** : Assurance UI 関連の管理タスクを実行します。
- **スーパー管理者** : システム管理者およびネットワーク管理者の両方が実行できるタスクを実行できます。

Helpdesk は Prime Collaboration の各ユーザに割り当てられた事前選択済みロールです。

Prime Collaboration Provisioning のユーザ ロール

グローバルおよびドメイン固有という 2 種類のグローバルなプロビジョニング ユーザ ロールを使用できます。

グローバルなプロビジョニング ユーザは通常、音声アプリケーションの Prime Collaboration Provisioning ビジネス抽象化を設定する IP テレフォニーのエキスパートです。ドメイン固有のプロビジョニング ユーザは、単一のドメインの管理者および複数のドメインのユーザにすることができます。

表 3-1 では、Prime Collaboration Provisioning のユーザ ロールについて説明します。

表 3-1 権限ロール

権限ロール	説明
グローバル ロール	
管理機能	すべての Prime Collaboration プロビジョニング 機能にアクセスできます。
メンテナンス	システムのクリーンアップ アクティビティを設定できます。詳細については、『 Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide 』の「Setting up the Server」を参照してください。
ドメインのロール	
ドロップダウンリストで、権限ロールを設定するドメインを選択します。選択したロールは、選択したドメインにだけ適用されます。	
ポリシー	電話ボタン テンプレートの表示、加入者ロールの修正、および電話インベントリの追加またはアップデートを行うことができます。
インフラストラクチャ設定管理	インフラストラクチャ設定オブジェクトをプロビジョニングできます。このロールを選択する場合は、[Permission Profile] ボックスからプロファイルも選択する必要があります。
権限プロファイル	この権限ロールが割り当てられているインフラストラクチャ設定オブジェクト ユーザが設定できる権限を設定します 権限の設定の詳細については、『 Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide 』の「Managing Infrastructure Configuration Permissions」を参照してください。
SelfCare ユーザ	自分のサービスを管理することを許可されています。回線を設定し、サービスを管理して、電話オプションをすばやく簡単に設定します。 (注) Prime Collaboration Provisioning スタンドアロン システムでは、加入者とユーザを追加するときにセルフケアをイネーブルまたはディセーブルにできます。統合モードでは、加入者だけの追加中にセルフケアをイネーブルにできます。[Self-Care] チェックボックスは、ユーザを追加するときには使用できません。ただし、ユーザを作成したら、[Manage Subscriber] ページからセルフケア ロールを割り当てることができます。『 Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide 』の「Creating a Self-Care Account」を参照してください。
オーダー ロール	
これらのロールを割り当てられたユーザは、他の加入者や自分自身のオーダーを発行できます。	
オーダー	許可する操作： <ul style="list-style-type: none"> ドメイン内の加入者の追加、削除、またはアップデート ドメイン内の加入者ロールの追加、削除、またはアップデート（ドメインルールで許可されている場合） ドメイン内のインベントリにある電話の追加、削除、またはアップデート（ドメインルールで許可されている場合） ドメイン内の詳細加入者情報の検索と表示 ドメイン内の加入者に対するオーダーの発行

表 3-1 権限ロール (続き)

権限ロール	説明
高度なオーダー	Ordering (オーダー) ロールによって指定されているすべての機能にアクセスできます。また、[Order Entry] ページの [Advanced Order] オプションにもアクセスできます。
高度な割り当て	Ordering (オーダー) ロールによって指定されているすべての機能にアクセスできます。また、オーダーの入力時に電話製品の MAC アドレスを割り当てることができます。
アクティビティ ロール	
これらのロールのいずれかを割り当てられたユーザは、オーダー処理中にグループに割り当てられているアクティビティを実行できます。	
承認	オーダーを受け入れて承認を完了できます。
割り当て	MAC アドレスを割り当てるユーザ アクティビティを受け入れることができます。
出荷	オーダーを受け入れて出荷を完了できます。
受領	オーダーを受け入れて受領を完了できます。



(注)

- globaladmin およびドメイン管理者はすべてのユーザにセルフケア ロールを作成できます。セルフケア ロールは、スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning の [Manage Users] ページでのみユーザに割り当てることができます。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』の「Creating a Self-Care Account」を参照してください。
- 統合モードでは、Prime Collaboration Assurance アプリケーションにセルフケア ロールに関連付けられたユーザはインポートできません。

ユーザの管理方法の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』の「Managing Subscribers and Users」の章を参照してください。

Prime Collaboration のシングル サインオン

Prime Collaboration では、シングル サインオン機能を使用して Prime Collaboration Assurance アプリケーションから Prime Collaboration Provisioning アプリケーションにログインする機能が提供されています。

統合モードでは、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションは、Prime Collaboration Assurance アプリケーションで使用されているのと同じパスワードを認証に使用します。

デフォルト ユーザ アカウント

Prime Collaboration は、globaladmin というデフォルトの Web クライアント管理者ユーザで事前設定されます。globaladmin は、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の両方の UI にアクセスできるスーパーユーザです。

仮想アプライアンスの設定時に、globaladmin のパスワードを指定します (スタンドアロン製品または統合アプリケーション用)。Prime Collaboration Web クライアントを初めて起動するときは、これらのクレデンシャルを使用する必要があります。

Prime Collaboration Assurance サーバおよび Prime Collaboration Provisioning サーバでは、admin および root という CLI ユーザがサポートされます。

Web クライアント UI を使用して CLI ユーザを作成できません。CLI ユーザは OVA コンフィギュレーションで作成されます。デフォルトでは、ユーザ名は **admin** です。パスワードは OVA コンフィギュレーションで指定され、アプリケーション ステータスをチェックし、バックアップと復元を実行するように CLI にログインするために使用されます。



注意

root パスワードは取得できないため、書き留めておくことを推奨します。



(注)

- Prime Collaboration Web クライアントで定義されているユーザは、Prime Collaboration サーバ (CLI) で定義されているユーザとは異なります。
- CLI ユーザは Prime Collaboration の [User Management] ページに表示されなくなります。
- globaladmin と root は同じパスワード検証ルール セットに従いますが、admin のルールは異なります。これらのユーザのパスワード検証ルールについては、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Quick Start Guide](#)』を参照してください。

ユーザ ロールおよびタスク

表 3-2 に、Prime Collaboration Assurance のユーザ ロールおよびユーザ ロールがマッピングされるタスクを示します。

スーパー管理者が UI メニューすべてにアクセスでき、次の表に記載されているすべてのタスクを実行できることに注意してください。このため、スーパー管理者は次の表にリストされていません。

表 3-2 Prime Collaboration Assurance のユーザ ロールおよびタスク マッピング

ナビゲーション	タスク	システム管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	Helpdesk
ホーム	ビデオと音声のコラボレーション ダッシュレットの表示	Yes	Yes	Yes	Yes
	ダッシュレットのカスタマイズ	Yes	Yes	Yes	Yes
	[Alarm Browser] の起動	Yes	Yes	Yes	Yes
	[Alarm Summary] の起動	Yes	Yes	Yes	Yes

表 3-2 Prime Collaboration Assurance のユーザ ロールおよびタスク マッピング (続き)

ナビゲーション	タスク	システム管理 者	ネットワーク 管理者	オペレータ	Helpdesk
[Operate] > [Diagnose] > [Sessions Diagnostics]	セッションのモニタ	Yes	Yes	Yes	No
	セッションのインポート	Yes	Yes	Yes	No
	[360° Session View] の起動	Yes	Yes	Yes	No
	[360° Session View] から：監視リスト への追加	Yes	Yes	Yes	No
	[360° Session View] から：アラームの 表示	Yes	Yes	Yes	No
	[360° Session View] から：エンドポイ ントのモニタ	Yes	Yes	Yes	No
	[360° Session View] から：セッション のトラブルシューティングまたはトラ ブルシューティング データのエク スポート	Yes	Yes	Yes	No
	トポロジ ビュー (エンドポイント) か ら：監視リストへの追加または監視リ ストからの削除	Yes	Yes	Yes	No
	トポロジ ビュー (エンドポイント) か ら：アラームの表示	Yes	Yes	Yes	No
	トポロジ ビュー (エンドポイント) か ら：エンドポイントのモニタ	Yes	Yes	Yes	No
	トポロジ ビュー (ネットワーク接続) から：ネットワーク リンクのトラブル シューティング	Yes	Yes	Yes	No
[Operate] > [Diagnose] > [Endpoint Diagnostics]	エンドポイントのモニタ	Yes	Yes	Yes	Yes
	クイック ビューの起動	Yes	Yes	Yes	Yes
	クイック ビューから：監視リストへの 追加または監視リストからの削除	Yes	Yes	Yes	No
	クイック ビューから：アラームの表示	Yes	Yes	Yes	Yes
	クイック ビューから：セッションのモ ニタ	Yes	Yes	Yes	No
[Operate] > [Diagnose] > [Diagnostics Summary]	[Diagnostics Summary] の表示	Yes	Yes	Yes	Yes
[Operate] > [Diagnose] > [IP-SLA Diagnostics]	トラブルシューティング セッションの 開始	Yes	Yes	Yes	No
[Operate] > [Diagnose] > [Media Path Analysis]	[Media Path Analysis] の開始	Yes	Yes	Yes	No

表 3-2 Prime Collaboration Assurance のユーザ ロールおよびタスク マッピング (続き)

ナビゲーション	タスク	システム管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	Helpdesk
[Operate] > [Alarms & Events] > [Alarms]	アラーム表示	Yes	Yes	Yes	Yes
	ステータスの変更	Yes	Yes	Yes	Yes
	アラームの割り当て	Yes	Yes	Yes	Yes
	注釈の追加	Yes	Yes	Yes	Yes
	電子メール通知	Yes	Yes	Yes	Yes
	クイック ビューの起動	Yes	Yes	Yes	Yes
	クイック ビューから：エンドポイントのモニタ	Yes	Yes	Yes	Yes
	クイック ビューから：イベント履歴の表示	Yes	Yes	Yes	Yes
[Operate] > [Alarms & Events] > [Events]	イベント表示	Yes	Yes	Yes	Yes
[Operate] > [Device Work Center]	クレデンシャルの管理	Yes	Yes	Yes	Yes
	デバイスの検出	Yes	Yes	Yes	Yes
	インベントリの更新	Yes	Yes	Yes	Yes
	クラスタの管理	Yes	Yes	Yes	Yes
	インベントリのインポート	Yes	Yes	Yes	Yes
	インベントリのエクスポート	Yes	Yes	Yes	Yes
	ジョブの検出	Yes	Yes	No	No
	可視性の編集 ([Edit] ボタン)	No	No	No	No
	イベントのカスタマイズ	Yes	Yes	Yes	Yes
	デバイス管理の一時停止	Yes	Yes	Yes	Yes
	デバイス管理の再開	Yes	Yes	Yes	Yes
	グループへの追加	Yes	Yes	Yes	Yes
	グループからの削除	No	No	No	No
[Operate] > [UC Topology View]	音声のダッシュレット/サマリーの表示	Yes	Yes	Yes	Yes
[Reports] > • Interactive Reports • Static Reports • Administrative Reports	レポートの生成	Yes	Yes	Yes	Yes (管理レポートを除く)
[Administration] > [Job Management]	ジョブの管理	Yes	Yes	No	No
	ジョブのスケジュール設定	Yes	Yes	No	No
	ジョブのキャンセル	Yes	Yes	No	No

表 3-2 Prime Collaboration Assurance のユーザ ロールおよびタスク マッピング (続き)

ナビゲーション	タスク	システム管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	Helpdesk
[Administration] > [User Management]	ユーザの表示	Yes	Yes	No	No
	ユーザの追加	Yes	Yes	No	No
	ユーザの編集	Yes	Yes	No	No
	ユーザの削除	Yes	Yes	No	No
	パスワードのリセット	Yes	Yes	No	No
	パスワードの変更	Yes	Yes	Yes	Yes
[Administration] > [License Management]	ライセンス詳細の表示	Yes	Yes	No	No
	ライセンスの追加	Yes	Yes	No	No
	ライセンスの削除	No	Yes	No	No
[Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup]	すべてのシステム パラメータの設定 ([General Settings], [Cisco Prime 360 Integration], [CDR Trunk Utilization settings], [Call Quality Data Source Management], [LDAP Settings], [Log Settings], [SFTP Settings], [IP Phone Inventory Collection Settings], [IP Phone XML Inventory Collection Settings], [Cluster Data Discovery Settings])	Yes	Yes	No	No
[Administration] > [Alarm & Event Configuration] > [Event Customization]	イベントのモニタリングと重大度のカスタマイズ。また、しきい値を定義して、自動的にトラブルシューティングを行う。	Yes	Yes	No	No

表 3-3 に、Prime Collaboration Provisioning のユーザ ロールおよびユーザ ロールがマッピングされるタスクを示します。特定のタスクを実行するドメイン ロールについて説明します。ただし、管理ユーザ ロールは Prime Collaboration Provisioning のタスクをすべて実行できます。

表 3-3 Prime Collaboration Provisioning のユーザ ロールおよびタスク マッピング

ナビゲーション	タスク	ドメイン ロール	グローバル ロール
[Home] > [Provisioning] > [Unified Provisioning Manager Capacity]	使用可能なセットから使用したライセンスの量に関する情報の表示	なし	管理機能
[Home] > [Provisioning] > [Pending Order Status]	保留中のオーダーの表示	オーダー、高度なオーダー、高度な割り当て、ポリシー、infraConfigManagement、割り当て、承認、出荷、受領	管理機能

表 3-3 Prime Collaboration Provisioning のユーザ ロールおよびタスク マッピング (続き)

ナビゲーション	タスク	ドメイン ロール	グローバル ロール
[Home] > [Provisioning] > [Device Sync Status]	デバイスの同期ステータスの表示	オーダー、高度なオーダー、高度な割り当て	管理機能
[Home] > [Provisioning] > [Deployment Details]	導入の詳細の表示	オーダー、高度なオーダー、高度な割り当て	管理機能
[Home] > [Provisioning] > [Locked Users]	ロックされているユーザの表示：指定された回数ログインに失敗した後にロックされたユーザ	なし	管理機能
[Home] > [Provisioning] > [Logged In Users]	アプリケーションにログインしているユーザの表示	なし	管理機能
[Design] > [Set Up Devices]	デバイス、コール プロセッサ、ユニファイドメッセージ プロセッサ、ユニファイドプレゼンス プロセッサ、AAA サーバの設定	なし	管理機能
[Design] > [Set Up Depolymnt]	ドメイン、サービス エリア、プロビジョニング テンプレート、Quick Site Builder の作成	なし	管理機能
	加入者ロールの作成	ポリシー	管理機能
[Deploy] > [Subscriber Management]	加入者の追加、加入者の検索	オーダー、高度なオーダー、高度な割り当て	管理機能
[Deploy] > [Order Management]	グループおよびユーザのアクティビティの管理	なし	管理機能
	オーダーの検索	オーダー、高度なオーダー、高度な割り当て	管理機能
[Deploy] > [Infrastructure Configuration]	インフラストラクチャの設定	infraConfigManagement	管理機能
[Deploy] > [Batch Provisioning]	バッチ プロビジョニングの実行	なし	管理機能
[Deploy] > [Provisioning Inventory]	電話の管理	ポリシー	管理機能
	ディレクトリ番号の管理、インベントリの参照および検索	なし	管理機能
[Report] > [Interactive Reports] > [Provisioning Reports]	プロビジョニング レポートの表示	なし	管理機能

表 3-3 Prime Collaboration Provisioning のユーザ ロールおよびタスク マッピング (続き)

ナビゲーション	タスク	ドメイン ロール	グローバル ロール
[Administration] > [Provisioning Setup]	電話ボタン テンプレートの設定	ポリシー	管理機能
	プロビジョニング ルール、属性、およびデータ メンテナンスの設定	なし	管理機能
[Administration] > [Notification Settings]	電子メールの設定	なし	管理機能

ユーザの追加、編集、削除

ユーザを追加して、事前定義済みの静的ロールを割り当てることができます。このユーザは、Prime Collaboration Web クライアントだけにアクセスできます。

Prime Collaboration Assurance または Prime Collaboration Provisioning Web クライアントに初めてログインするときは、`globaladmin` としてログインしてください。

`globaladmin` は、監査証跡および Prime Collaboration Provisioning オーダー トラッキング システムで追跡できるように、実際のユーザ ID を使用して他の管理者を作成する必要があります。



注意

名前を使用してユーザを作成しないでください (`globaladmin`、`pmadmin`、および `admin`)。

Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを統合すると、[Administration] > [User Management] ページで [Import] 機能を使用して、ドメイン固有のプロビジョニング ロールおよびグローバル プロビジョニング ロールを持つユーザ (セルフケア ロールが割り当てられていないユーザ) を Prime Collaboration Assurance アプリケーションにインポートできます。インポートされたユーザのリストを表示するには、[User Management] ページを更新する必要があります。



(注)

Prime Collaboration Provisioning セルフケア ユーザを Prime Collaboration Assurance アプリケーションにインポートすることはできません。

`root` ユーザとしてログインして `/opt/emms/emsam/log/importedprovisioninguser.log` ファイルを確認すると、ユーザ名の重複 (すでに Prime Collaboration Assurance で使用されているユーザ名)、ユーザ名にパスワードがないなどのいくつかの理由で Prime Collaboration Assurance データベースにインポートされていないユーザを確認できます。

ただし、新たにインストールした Prime Collaboration Provisioning アプリケーション (ユーザ データを含みません) を Prime Collaboration Assurance アプリケーションと統合し、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning に共通のユーザを作成する場合は、前提条件として次のタスクを実行する必要があります。

- デバイスの追加: デバイスの作成方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』の「Adding Devices to Provisioning」を参照してください。
- ドメインの作成: ドメインの作成方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』の「Creating a Domain」を参照してください。

- 加入者の追加：加入者の追加方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』の「Creating Subscribers」を参照してください。

ユーザを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Administration] > [User Management] の順に選択します。
- ステップ 2** [User Management] ページで、[Add] をクリックします。
- ステップ 3** [Add User] ウィンドウで、必要なユーザの詳細情報を入力します。LDAP サーバが許可を実行するため、Prime Collaboration と同じユーザ ID が必要であることを注意してください。詳細については、『[LDAP サーバの設定](#)』(P.3-11) を参照してください。
- [LDAP User] オプションを選択した場合、[Password] フィールドおよび [Confirm Password] フィールドは表示されません。
- ステップ 4** 適切な Prime Collaboration Assurance ロールを選択します（Prime Collaboration Provisioning アプリケーションが Prime Collaboration Assurance アプリケーションに統合されていない場合は、追加操作の実行時に [Provisioning Domain] フィールドおよび [Provisioning Roles] フィールドが表示されません）。
- ステップ 5** プロビジョニング ユーザのみ、または Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の共通ユーザが必要な場合は、次の手順を実行します。
- [Provisioning Roles] チェックボックスで適切なロールを選択します。
 - [Domain Specific] の [Add Row] をクリックして、ドメイン固有のプロビジョニング ロールを作成します。一般ロール、オーダー ロール、およびアクティビティ ロールのロール設定オプションが表示されます。権限ロールの詳細については、『[表 3-1 権限ロール](#)』(P.3-2) を参照してください。
 - 必要な詳細を入力し、[Done] をクリックします。
- ステップ 6** [Save] をクリックします。
-

このように [Add User] 機能を使用して作成されたユーザは、Web クライアントだけに関連付けられ、CLI を介して Prime Collaboration Assurance サーバまたは Prime Collaboration Provisioning サーバにログインできません。



(注)

Prime Collaboration Assurance アプリケーションおよび Prime Collaboration Provisioning アプリケーションは、インベントリ データベースを共有しません。デバイスを別々に管理して、保証およびプロビジョニング タスクを実行する必要があります。Prime Collaboration Assurance アプリケーションを使用したデバイス管理タスクを実行するには、『[Cisco Prime Collaboration Device Management Guide](#)』を参照してください。Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを使用したデバイス管理およびプロビジョニング タスクを実行するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』を参照してください。

ユーザの連絡先情報、ロール、またはアカウント ステータスが変更された場合、管理者はシステムの対応する情報を編集する必要があります。

ユーザの詳細を編集するには、[Administration] > [User Management] でユーザを選択し、必要な変更を行います。

定期的なシステム管理タスクの一環として、場合によっては Prime Collaboration データベースからユーザを削除する必要があります。ただし、Prime Collaboration Web クライアントのデフォルトの管理者 globaladmin は削除できません。

ユーザを削除するには、[Administration] > [User Management] でユーザを選択し、[Delete] をクリックします。削除したユーザ名でスケジュールされたジョブは、キャンセルされるまで引き続き実行されます。

LDAP サーバの設定

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバに接続することにより、LDAP サーバに格納されたユーザ情報にアクセスするように Prime Collaboration を設定することができます。統合モードでは、Prime Collaboration Assurance で指定された LDAP サーバは認証だけに使用されます。許可およびロールベース アクセス コントロール (RBAC) 機能は、Prime Collaboration によって実行されます。

[User Management] ページで LDAP ユーザを作成して、このユーザが LDAP のクレデンシャルを使用してログインできるようにする必要があります。詳細については、「[ユーザの追加、編集、削除](#) (P.3-9) を参照してください。

Prime Collaboration は、1 台のプライマリ LDAP サーバと 1 台のバックアップ LDAP サーバをサポートします。

LDAP サーバを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [LDAP Settings] を選択します。
 - ステップ 2** [LDAP Settings] ページで、すべてのフィールドに値を入力し、[Test Connection] をクリックして、LDAP サーバへの接続を確認します。
 - ステップ 3** Prime Collaboration が SSL 暗号化を使用する必要がある場合は、[Use SSL] チェックボックスをオンにし、ポート 636 を指定します。
 - LDAP の設定を入力し、[Test Connection] をクリックして、LDAP サーバへの接続を確認します。
 - ステップ 4** 接続に成功したら、[Apply Settings] をクリックし、LDAP を使用してログインするように Prime Collaboration Assurance サーバを再起動します。

Prime Collaboration Assurance サーバを再起動するには、root ユーザとしてログインし、次のコマンドを実行します。

```
cd /opt/emms/emsam/bin
application start cpcm
application stop cpcm
```

application start cpcm コマンドは、実行完了に 10 ~ 15 分かかり、**application stop cpcm** は実行完了に 10 分かかります。



注意

LDAP 認証は、検索ベースで特殊文字を入力すると失敗します。



(注)

任意でバックアップ LDAP サーバの IP アドレスおよびポート番号を入力します。

パスワードのリセットおよび変更

スーパー管理者、システム管理者、またはネットワーク オペレータは、Prime Collaboration のパスワードをリセットしたり、自身のパスワードを変更したりできます。

パスワードをリセットするには、[Administration] > [User Management] でユーザを選択し、必要な変更を行います。

自身のパスワードを変更するには、[Change Password] をクリックし、必要な変更を行います。

次の手順を使用して、Prime Collaboration Assurance Web クライアントの globaladmin パスワードをリセットできます。

Prime Collaboration Assurance の globaladmin パスワードをリセットするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 root ユーザとしてログインします。

ステップ 2 「goemsam」 コマンドを入力します。

ステップ 3 次のコマンドを実行します。

```
#./bin/resetGlobalAdminPassword.sh
```

ステップ 4 globaladmin の新しいパスワードを入力し、新しいパスワードを確認します。

Prime Collaboration Provisioning の globaladmin パスワードをリセットするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 root ユーザとしてログインします。

ステップ 2 次のコマンドを実行します。

```
#cd /opt/cupm/sep/ipt/bin:
#./ResetGlobalAdminPassword.sh 'new password' <server type>
```

globaladmin の新しいパスワードを入力し、サーバタイプを指定します。サーバタイプは次のいずれかです。

[ALL] : 単一マシンのインストールの場合

[Database] : データベース サーバの場合

[Application] : アプリケーション サーバの場合



(注)

データベースとアプリケーションが別のサーバ上にある分散システムの場合は、両方のサーバでこの手順を実行する必要があります。



CHAPTER 4

Prime Collaboration サーバの統合

Prime Collaboration Assurance アプリケーションおよび Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを統合して、音声およびビデオの両方のエンドポイントをモニタしたり、ユニファイドコミュニケーション システムをプロビジョニングしたりする場合は、Prime Collaboration Assurance システムおよび Prime Collaboration Provisioning システムの両方の機能を活用できます。

Prime Collaboration は、Prime Collaboration Provisioning を Prime Collaboration Assurance と統合し、Prime Collaboration Assurance から Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを設定する機能を提供します。また、Prime Collaboration Assurance UI を使用して Prime Collaboration Assurance から Prime Collaboration Provisioning の統合を解除することもできます。

Prime Collaboration Provisioning の [Server Setup] の [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Cisco Prime 360 Integration] で、接続するか、取り外しするプロビジョニングアプリケーションの IP アドレスを指定します。



(注)

- Prime Collaboration Provisioning と Prime Collaboration Assurance の統合時に、プロビジョニングアプリケーション サーバ (データベース サーバではなく) の IP アドレスを入力する必要があります。
- Prime Collaboration Assurance に Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを接続した後、統合された UI が表示されるように UI を更新する必要があります。
- Prime Collaboration Assurance に使用されるポートは 26 で、Prime Collaboration Provisioning に使用されるポートは 22 です。
- 統合モードでは、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを再起動またはシャットダウンする前に、Prime Collaboration Assurance から取り外したことを確認し、再起動プロセス後に統合します。
- Microsoft IE 8.0 を介して統合アプリケーションを起動すると、デフォルトでは Prime Collaboration Assurance の通信が https で、Prime Collaboration Provisioning の通信が http であるため、「Do you want to view only the webpage content that was delivered securely」というメッセージが表示されます。
 - ポップアップ ダイアログボックスから [No] を選択した場合は、Prime Collaboration Provisioning のすべてのページに適切なデータが表示されます。
 - ポップアップ ダイアログボックスから [Yes] を選択した場合は、Prime Collaboration Provisioning のすべてのページにデータが表示されません。

ただし、Microsoft IE 9.0 では、セキュリティ警告が表示されず、Prime Collaboration Provisioning のすべてのページに適切なデータが表示されます。

また、[Test Connectivity] をクリックすると、Prime Collaboration Provisioning サーバへの接続をテストしたり、IP アドレスを変更したりできます。

統合モードでは、Prime Collaboration Provisioning UI が Prime Collaboration Assurance と統合され、Prime Collaboration Provisioning にログインしている場合でも、プロビジョニング IP アドレスが Prime Collaboration Assurance にリダイレクトされます。

Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の関連付けを解除すると、統合モードの Prime Collaboration Provisioning および Prime Collaboration Assurance で適切であったユーザ ロールもスタンドアロン アプリケーションに適用されます。

Cisco Prime Network Analysis Module (NAM) および Cisco Prime LAN Management Solutions (LMS) :

Prime NAM と Prime LMS を使用してネットワーク診断を実行できます。セッションのトラブルシューティングを実行中に、これらのアプリケーションを相互起動すると、エンドポイント間で接続されているネットワーク デバイスの問題をさらに詳しく分析できます。

トラブルシューティングを行っている最中に、特定のデバイスに対して Prime NAM 機能または Prime LMS 機能を起動するには、デバイスがこれらのアプリケーションおよび Prime Collaboration で管理されていることを確認する必要があります。

これらのアプリケーションの詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』の「Cross-Launching NMS Applications」を参照してください。



CHAPTER 5

システムパラメータの設定

Prime Collaboration では、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の両方のシステムパラメータを設定することができます。次に、Assurance のシステムコンフィギュレーションパラメータを示します。Prime Collaboration Provisioning システムパラメータを設定するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』を参照してください。

次の Prime Collaboration Assurance システムパラメータを設定するには、[Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] に移動します。

- [Dashlet Label] および [SMTP Server] : [General Settings] のこれらのパラメータを設定するには、『[\[Dashlet Label\] および \[SMTP Server\] の設定](#) (P.5-2)』を参照してください。
- [CDR Trunk Utilization Settings] : トランクおよびゲートウェイの最大容量を設定することができます。特定のトランクまたはゲートウェイに最大容量を設定することも、CSV ファイルを使用してすべてのクラスタのトランク使用率設定データをインポートすることもできます。このパラメータを設定するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』を参照してください。
- [Call Quality Data Source Management] : Prime Collaboration は、VoIP ネットワークの音声品質測定をモニタします。このリアルタイムのサービス品質情報は、Unified CM と Cisco NAM から収集されます。このパラメータを設定するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』を参照してください。
- [LDAP Settings] : このパラメータを設定するには、『[LDAP サーバの設定](#) (P.3-11)』を参照してください。
- [Log Settings] : このパラメータを設定するには、『[ログレベル](#) (P.5-2)』を参照してください。
- [SFTP Settings] : Prime Collaboration が SRST モードの電話機を表示して、関連イベントを生成するようにするには、SRST ポール設定値を設定して、Prime Collaboration がテストする SRST コンポーネントを指定する必要があります。このパラメータを設定するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』の「Configuring SFTP Settings」を参照してください。
- [IP Phone Inventory Collection Settings] : [Phone XML Collection] を使用して、電話検出をスケジューリングできます。このパラメータを設定するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Device Management Guide](#)』を参照してください。
- [IP Phone XML Inventory Collection Settings] : このパラメータを設定するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Device Management Guide](#)』を参照してください。
- [Cluster Data Discovery Settings] : Prime Collaboration は Unified CM から収集されたインベントリおよびデバイス登録情報を統合することができます。このパラメータを設定するには、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Device Management Guide](#)』を参照してください。

[Dashlet Label] および [SMTP Server] の設定

[Dashlet Label Prefix Removal Setup] パラメータを使用して、Prime Collaboration ダッシュボードに表示されるエンドポイント名またはデバイス名を短縮できます。これは、エンドポイントとデバイス全体で共通のプレフィックスを使用した場合にのみ適用されます。

このパラメータを設定するには、プレフィックス文字列を、セミコロン (;) で区切って指定します。セミコロン以外のすべての特殊文字を使用できます。プレフィックスには、空白を含めることもできます。

また、SMTP サーバ名と送信者 AAA 電子メール アドレスを指定して、アラームの電子メール通知を送受信するように SMTP サーバを設定できます。送信者 AAA 電子メール アドレスのフィールドの値は、数多くのサーバがある場合に、電子メールの受信元のサーバを識別するのに役立ちます。

ログ レベル

Prime Collaboration では、次のログ レベルがサポートされています。

- [Debug] : アプリケーションのデバッグに役立ちます。
- [Error] : アプリケーションの実行を続行可能であることを示します。
- [Information] : アプリケーションの進行状況を示します。
- [Warning] : 有害な状況のおそれがあることを示します。
- [Fatal] : クリティカルなログを示します。

ログ レベルは、次の機能に対して設定できます。

- 障害管理 : 障害管理関連の問題の場合。
- パフォーマンス モニタ : パフォーマンス統計関連の問題の場合。
- サーバ診断 : Prime Collaboration Assurance サーバ関連の問題の場合。
- 検出、セッション モニタリングなど : 検出、セッション管理、および Web サーバ関連の問題の場合。

ログ レベルの設定は、[Log Settings] ページで変更できます ([Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Log Settings])。



注意

ログ レベル設定を変更する場合は、必ず Cisco Technical Assistance Center (TAC) チームにお問い合わせください。ログ ファイルはバックアップ ファイルにも含まれます。



CHAPTER 6

バックアップと復元の実行

Prime Collaboration では、データのバックアップを作成し、復元することができます。ただし、管理ユーザ（CLI ユーザ）としてシステムにログインし、手動でバックアップおよび復元コマンドを実行する必要があります。



(注)

- CLI は SSH だけでサポートされます。telnet はサポートされません。Prime Collaboration Assurance に使用されるポートは 26 で、Prime Collaboration Provisioning に使用されるポートは 22 です。
- **application start cpcm** コマンドは、実行完了に 10 ～ 15 分かかり、**application stop cpcm** は実行完了に 10 分かかります。

バックアップと復元の概要

Prime Collaboration Assurance アプリケーションおよび Prime Collaboration Provisioning アプリケーション（UI）は統合されていますが、Assurance サーバと Provisioning サーバのそれぞれでバックアップを実行する必要があります。

ここでは、Prime Collaboration Assurance のバックアップおよび復元についてだけ説明します。Prime Collaboration Provisioning のバックアップと復元については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning Guide](#)』の「Provisioning Database Backup and Restore」を参照してください。

Prime Collaboration Assurance では、次のページポリシーを使用しています。

- 1 日以上経過したすべてのセッション統計とエンドポイント統計データはページされます。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』の「Monitoring Sessions」を参照してください。
- 14 日以上経過したすべてのセッション情報とトラブルシューティング情報は、1 時間に 1 回ページされます。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』の「Video Endpoints」を参照してください。
- 30 日以上経過したコール品質のイベント履歴および音声/ビデオ電話の監査レポートデータは、ページされます。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide](#)』の「Voice Reports」を参照してください。
- 14 日以上経過したクリア済みアラームおよびイベントは、1 時間に 1 回ページされます。アラームがページされると、すべての関連イベントもページされます。アクティブなイベントとアラームはページされません。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Fault Management Guide](#)』を参照してください。

- 14 日以上経過しており、ステータスが完了済み、失敗、またはキャンセルのジョブは、1 時間に 1 回ページされます。

バックアップと復元サービスを使用して、データベース、コンフィギュレーション ファイル、ログ ファイルをリモート ロケーションとローカル ディスクのいずれかにバックアップできます。バックアップ サービスでバックアップされるのは次のフォルダのファイルです。

フォルダ名	データのタイプ
emms database	データベース
cpcm/conf	コンフィギュレーション ファイル
cpcm/export	トラブルシューティングとエンドポイント利用率レポート
cpcm/logs および tomcat/logs	Assurance アプリケーションと Tomcat ログ ファイル
jre/lib/security	キーストア ファイル

バックアップと復元は、次の方法で実行できます。

- システムのデータのバックアップを作成し、同じシステムで復元する。詳細については、「[同じシステムでの復元](#)」(P.6-2) を参照してください。
- システムのデータのバックアップを作成し、別のシステムで復元する。詳細については、「[別のシステムでの復元](#)」(P.6-4) を参照してください。

同じシステムでの復元

ここでは、データをバックアップし、同じシステムで復元する処理について説明します。

FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成

データのバックアップ前にリポジトリを作成する必要があります。デフォルトでは、バックアップ サービスは *.tar.gpg ファイルを設定されたリポジトリに作成します。バックアップされたファイルは圧縮形式になっています。CD-ROM、ディスク、HTTP、FTP、SFTP または TFTP にあるリポジトリを使用できます。

リポジトリを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 インストール中に作成したアカウントを使用して Prime Collaboration Assurance サーバにログインします。デフォルトのログインは *admin* です。

ステップ 2 次のコマンドを入力してディスクにリポジトリを作成します。

```
admin# config t
admin(config)# repository RepositoryName
admin(config-Repository)# url ftp://ftpserver/directory
admin(config-Repository)# user UserName password {plain | hash} Password
admin(config-Repository)# exit
admin(config)# exit
```

それぞれの説明は次のとおりです。

- *RepositoryName* とは、ファイルをバックアップする場所を指します。この名前には最大 30 文字までの英数字を指定できます。
- *ftp://ftpservers/directory* とは、FTP サーバおよびサーバ上のディレクトリで、ここにファイルを転送します。FTP の代わりに SFTP、HTTP、ディスク、または TFTP を使用することもできます。
- *UserName* および *{plain | hash} Password* とは、FTP、SFTP、または TFTP のユーザ名とパスワードです。*hash* は暗号化されたパスワードを指定し、*plain* は暗号化されていない、プレーンテキストパスワードを指します。

たとえば、次のように入力します。

```
admin# config t
admin(config)# repository tmp
admin(config-Repository)# url ftp://ftp.cisco.com/incoming
admin(config-Repository)# user john password plain john!23
admin(config-Repository)# exit
admin(config)# exit
```

データのバックアップ

リポジトリを作成後、Prime Collaboration Assurance サーバに *admin* としてログインし、次のコマンドを実行してデータをバックアップします。

```
admin# backup Backupfilename repository RepositoryName application cpcm
```

それぞれの説明は次のとおりです。

- *Backupfilename* : バックアップ ファイル名 (拡張子 *.tar.gpg* なし)。この名前には最大 100 文字までの英数字を指定できます。
- *RepositoryName* : ファイルをバックアップする場所。この名前には最大 30 文字までの英数字を指定できます。

バックアップが完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
% Creating backup with timestamped filename: Backupfilename-Timestamp.tar.gpg
```

バックアップ ファイルには、サフィックスとして末尾にタイム スタンプ (YYMMDD-HHMM) とファイル拡張子 *.tar.gpg* が付され、リポジトリに保存されます。たとえば、次のように入力します。

```
admin# backup cmbackup repository tmp application cpcm
```

バックアップが完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
% Creating backup with timestamped filename: cmbackup-110218-0954.tar.gpg
```

データの復元

データを復元するには、Prime Collaboration Assurance サーバに *admin* としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
admin# restore Backupfilename repository RepositoryName application cpcm
```

ここで、*Backupfilename* は、サフィックスとして末尾にタイムスタンプ (YYMMDD-HHMM) とファイル拡張子 *.tar.gpg* が付された、バックアップ ファイルの名前です。

たとえば、次のように入力します。

```
admin# restore cmbackup-110218-0954.tar.gpg repository tmp application cpcm
```

別のシステムでの復元

Prime Collaboration では、システムのデータをバックアップし、システム全体に障害が発生した場合に別のシステムでデータを復元することができます。

ファイルをバックアップする前に、バックアップを実行するシステムの「qovr」データベース インスタンス パスワードを変更し、(ファイルの復元を実行する) 新しいシステムで同じパスワードを使用します。

ただし、バックアップを作成するプロセスは、「データのバックアップ」(P.6-3) の場合と同じです (「FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成」(P.6-2) も参照)。

バックアップの前に、実行システムの「qovr」データベース インスタンス パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** システムに root ユーザとしてログインします。
- ステップ 2** Prime Collaboration Assurance サーバを停止します。
- ```
/opt/emms/emsam/bin/cpcmcontrol.sh stop
```
- (プロセスが完了するのに 10 分かかります)
- ステップ 3** 次のコマンドを実行します。
- ```
perl opt/CSCOpX/bin/dbpasswd.pl dsn=qovr npwd="new password"
```
- ファイルを復元する新しいシステムでこの新しい qovr データベース パスワードを使用します。
- ステップ 4** Prime Collaboration Assurance サーバを起動します。
- ```
/opt/emms/emsam/bin/cpcmcontrol.sh start
```
- (プロセスが完了するのに 15 分かかります)
- ステップ 5** 管理者としてログインし、「データのバックアップ」(P.6-3) の説明に従ってバックアップを実行します (「FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成」(P.6-2) も参照)。
- 

別のシステムからのバックアップを復元するには、次の前提条件が満たされている必要があります。

- データが復元されるシステムの IP アドレス、ホスト名、および MAC アドレスが、データがバックアップされたシステムと同じである必要があります。  
システム (バックアップされた元のシステム) の MAC アドレスを別のシステムに割り当てることのできない場合は、Cisco TAC に新しいライセンス ファイル (新しい MAC アドレス用) 情報をお問い合わせください。
- バックアップを実行するシステムの「qovr」データベース インスタンス パスワードを変更し、(ファイルの復元を実行する) 新しいシステムで同じパスワードを使用します。

- ESX 4.1 では、バックアップされたシステムのスタティック MAC アドレスを、データの復元を使用する新しいシステムに割り当てる必要があります。ただし、ESX 5.0 の場合、このような条件はなく、データの復元を使用する新しいシステムに任意のダイナミック MAC アドレスをスタティック MAC アドレスとして割り当てることができます。

復元の前に、実行システムの「qovr」データベース インスタンス パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** システムに root ユーザとしてログインします。
- ステップ 2** Prime Collaboration Assurance サーバを停止します。  
`/opt/emms/emsam/bin/cpcmcontrol.sh stop`  
(プロセスが完了するのに 10 分かかります)
- ステップ 3** 次のコマンドを実行します。  
`perl opt/CSCOpX/bin/dbpasswd.pl dsn=qovr npwd="new password"`
- 新しいパスワードには、データがバックアップされた元のマシンに入力したものと同一 qovr データベース パスワードの値を使用します。
- ステップ 4** Prime Collaboration Assurance サーバを起動します。  
`/opt/emms/emsam/bin/cpcmcontrol.sh start`  
(プロセスが完了するのに 15 分かかります)
- ステップ 5** 管理者としてログインし、「データの復元」(P.6-3) の説明に従って復元を実行します。
- 

### リポジトリ データの一覧表示

リポジトリ内のデータをリストするには、Prime Collaboration Assurance サーバに admin としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
admin# show repository RepositoryName
```

たとえば、次のように入力します。

```
admin# show repository tmp
cmbackup-110218-0954.tar.gpg
admin#
```

### バックアップ履歴の確認

バックアップ履歴を確認するには、Prime Collaboration Assurance サーバに admin としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
admin# show backup history
```

たとえば、次のように入力します。

```
admin# show backup history
Fri Feb 18 09:54:39 UTC 2011: backup cmbackup-110218-0954.tar.gpg to repository
temp: success
Fri Feb 18 18:29:48 UTC 2011: backup cmbackup-110218-1829.tar.gpg to repository
temp: success
admin#
```





# CHAPTER 7

## ジョブの管理

---

Prime Collaboration では、[Jobs] ペインに即時ジョブおよび定期ジョブすべての詳細を表示できます。手動でスケジュールされるジョブは、検出、インベントリ更新、セッションインポートです。ポーリングジョブは、ユーザ設定値に基づいて、トリガーされます。

表 7-1 に、[Jobs] ページ ([Administration] > [Job Management]) に表示される詳細をリストします。最新情報を取得するには、ページを更新します。

表 7-1 Job Details

| フィールド                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Name                     | Prime Collaboration Assurance サーバまたは Prime Collaboration Provisioning サーバで定義されているジョブの説明。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| Type                     | ジョブのタイプを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| Description              | ジョブの説明です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| Status                   | <p>ジョブのステータス。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Completed]</b> : ジョブが完了しました。ジョブが完了しても、成功したとは限りません。ジョブがいくつかのデバイスで失敗している可能性もあります。ジョブの詳細は、ページの左端にある矢印をクリックして <b>[Job Instances]</b> テーブルで表示できます。</li> <li>• <b>[Cancelled]</b> : ジョブがキャンセルされました。スケジュール済みジョブをキャンセルできます。ただし、実行中のジョブまたはシステム ジョブ（たとえば、ポーリング ジョブ）はキャンセルできません。</li> <li>• <b>[Scheduled]</b> : ジョブは、特定の時間に実行するようスケジュールされています。ジョブは一度で実行されるか、または複数回繰り返し実行されるようにスケジュールできます。</li> <li>• <b>[Suspended]</b> : ジョブは、一時的に停止され、後で実行再開できます。</li> <li>• <b>[Running]</b> : ジョブが実行中です。</li> </ul> |
| Owner                    | ジョブを作成したユーザ。事前定義されたシステム ジョブの場合、 <b>[Creator]</b> には <b>[SYSTEM]</b> と表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| Job Start Time           | ジョブが最初に実行をスケジュールされている時刻。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| Job End Time             | ジョブがアクティブになっている時間。スケジュールされているすべてのジョブのインスタンスを実行したら、ジョブは非アクティブになります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| Next Scheduled Time      | 以降のジョブ インスタンスの開始時刻。これは、定期的に繰り返されるジョブに適用されます。即時ジョブまたはワнтаイト ジョブのいずれかの場合、 <b>[Job Start Time]</b> および <b>[Next Scheduled Time]</b> に表示される時刻は同じです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| Schedule Type            | ジョブが定期的または一度実行するようスケジュールされているか示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <b>[Job Details] ペイン</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| Run ID                   | 定期ジョブの場合、ジョブ インスタンス カウントが表示されます。定期ジョブではない場合、ゼロを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| Status                   | 同じジョブのジョブ インスタンスのステータス。この列のクイック ビュー アイコンにマウスを合わせると、ジョブ インスタンス結果が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| Status Progress          | ジョブの段階と、完了率を示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| Results                  | ジョブが成功したか、失敗したかを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| Start Time               | 同じジョブのジョブ インスタンスの開始時刻。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| End Time                 | 同じジョブのジョブ インスタンスの終了時刻。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| Duration                 | 同じジョブのジョブ インスタンスの開始時刻と終了時刻との間で経過する時間。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## ジョブのスケジューリング

ジョブのスケジューリングとオプションの設定は、**[Job Details]** ペイン下にある **[Schedule]** および **[Settings]** タブを使用して行います。





(注) スケジュールと設定のタブは、検出ジョブに対してのみイネーブルになります。検出ジョブは、[Device Work Center] ページのみでスケジュールできます。[Job Management] ページではジョブをスケジュールすることができません。

次のいずれかのステータスを持つ検出ジョブのスケジュールのみを変更できます。

- Running
- Scheduled
- Failed

ジョブをスケジューリングする手順は次のとおりです。

- ステップ 1** [Jobs] ペインでジョブを選択し、[Job Details] ペイン下にある [Schedule] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Schedule Options] で、開始時刻、終了時刻、繰り返しを選択します。  
[Daily]、[Weekly]、[Monthly] のいずれかの繰り返しを設定し、日付と頻度を指定します。必要に応じてジョブを数時間おきにスケジューリングするには、[Hourly] を選択する必要があります。  
スケジュールが定義されます。繰り返しを [None] に設定すると、他の頻度の詳細を指定できません。
- ステップ 3** [Settings] タブをクリックし、オプションの選択に進みます。  
定義した設定に従ってジョブが実行されます。このジョブのステータスは、[Jobs] ペインで [Scheduled] に設定されます。

## ジョブのキャンセル

[Cancel Job] を使用して、**Scheduled** 状態の検出ジョブをキャンセルできます。ただし、ステータスが次のいずれかの場合、ジョブはキャンセルできません。

- Cancelled
- Completed
- Failed
- Running

また、次のジョブはキャンセルできません。

- [Polling] : 単語 Polling で始まるすべてのジョブ。Polling\_CTS-HEALTH\_、Polling\_TelepresenceSystem\_、Polling\_CtsMAN-HEALTH\_ など。
- [Purging] : 単語 Purging で始まるすべてのジョブ。

## 事前定義済みのクイック フィルタ

Prime Collaboration は、次の事前定義済みのクイック フィルタをサポートしています。

- [All Discovery Jobs] : 検出ジョブの例は DiscoveryFrmBackgroundPathtrace です。検出ジョブは、デバイス検出、インベントリの再検出または更新を実行するとリストされます。これには、[Operate] > [Device Work Center] > [Discover Devices] を使用するか、またはデバイスを選択し、[Rediscover] または [Update Inventory] をクリックします。

ジョブ インスタンス結果を表示できます。[Job Details] ペインの [Run ID] カラムの値にマウス ポインタを合わせ、[Quick View] アイコンをクリックすると、全体のデバイス サマリーと、エンドポイント デバイスのサマリーが表示されます。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Device Management Guide](#)』の「Discovering Devices」を参照してください。

- [All Polling Jobs] : ポーリング ジョブの例は `MCU_Session_Import` です。ポーリング ジョブは、システムが設定された時点で自動的に作成されます。
- [All Report Jobs] : レポート ジョブは、レポートが実行されると一覧に示されます。
- [All Session Import Jobs] : セッション インポート ジョブの例は `MNGD_Synch_CtsMAN-MEETING` です。セッションは `CTS-Manager` および `Cisco TMS` からインポートされます。これらの管理アプリケーションごとに、個別にジョブが作成されます。
- [All System jobs] : 検出、ポーリングなどのシステム生成ジョブ。システム生成ジョブは、システムがジョブを実行するとすぐに一覧に示されます。
- [All User Jobs] : ユーザ ジョブの例は `RediscoverDevices_1347339631540` です。ユーザ ジョブは、ユーザがジョブを実行するとすぐに一覧に示されます。
- [Jobs Run in Last 24 Hours] : 過去 24 時間に実行されたジョブの例は、`Discovery 2012-Sep-13 10:32:40 UTC` です。最後に完了した時間（最後の実行インスタンス）が（現在の時刻から）過去 24 時間以内に収まるすべてのジョブを一覧に示します。



# APPENDIX A

## ユーザ インターフェイス

Prime Collaboration はシンクライアントであり、Prime Collaboration Assurance アプリケーションおよび Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを構成する Web ベースのアプリケーションです。Prime Collaboration ユーザ インターフェイス (UI) コンポーネントは、UI 全体で表示され、フィルタの設定、クイック ビューでのページの詳細の参照、グローバル検索を行うことができます。

Prime Collaboration Assurance アプリケーションおよび Prime Collaboration Provisioning アプリケーションは、スタンドアロン システムとしてインストールできます。クライアント要件の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Quick Start Guide](#)』を参照してください。

### フィルタ

フィルタ機能を使用して、Prime Collaboration ユーザ インターフェイスで特定の情報を表示できます。データが表形式で表示されるときは常に [Filter] アイコンが表示されます。

次に、Prime Collaboration クライアントで使用可能なタイプのフィルタを示します。

- [クイック フィルタ](#)
- [拡張フィルタ](#)
- [プリセット フィルタ](#)

クイック フィルタおよび拡張フィルタは、大文字と小文字を区別しません。これらのフィルタについては、次のワイルドカード表現も使用できます。

- 疑問符 (?): 任意の 1 文字を一致させます。
- アスタリスク (\*): 0 文字以上を一致させます。

### クイック フィルタ

このフィルタを使用すると、フィルタを特定のテーブル列に適用することで、テーブル内のデータを絞り込むことができます。このフィルタとともに使用される演算子は、*Contains* です。さまざまな演算子を適用するには、[Advanced Filter] オプションを使用します。

クイック フィルタを起動するには、[Filter] ドロップダウン メニューから [Quick Filter] を選択します。

クイック フィルタをクリアするには、[Filter] をクリックします。

### 拡張フィルタ

このフィルタを使用すると、Does not contain、Does not equal、Ends with、Is empty など、複数の演算子を使用してフィルタを適用することによって、表内のデータを絞り込むことができます。

ドロップダウン メニューからフィルタ パターン (テーブル列名) と演算子を選択できます。さらに、Prime Collaboration データベースで使用可能なデータに基づいて、フィルタ基準を入力する必要があります。

### 拡張フィルタの起動

拡張フィルタを起動するには、[Filter] ドロップダウン メニューから [Advanced Filter] を選択します。拡張フィルタで使用するフィルタ基準を保存できます。フィルタ基準を保存するには、次のようにします。

- 
- ステップ 1** [Filter] ドロップダウン メニューから、[Advanced Filter] を選択します。
  - ステップ 2** 拡張フィルタ基準を入力します。
  - ステップ 3** [Go] をクリックし、次に [Save] アイコンをクリックします。
  - ステップ 4** [Save Preset Filter] ウィンドウで、プリセットフィルタの名前を入力して、[Save] をクリックします。拡張フィルタをクリアするには、[Filter] ボタンをクリックします。
- 


### プリセット フィルタ

Prime Collaboration には、データをフィルタリングするための事前定義済みのキーワードが用意されています。さらに、保存した拡張フィルタ基準も、[Preset Filter] ドロップダウン リストにリストされます。フィルタ基準を保存する方法の詳細については、「[拡張フィルタ](#)」(P.A-1) を参照してください。この機能は、[Device Management]、[Alarm browsers]、および [Event browsers] などの一部のページで使用可能です。プリセット フィルタを起動するには、[Show] ドロップダウン リストから使用可能な値を選択します。

### 事前定義済みのフィルタ

Prime Collaboration は、テーブルのデータをフィルタリングできるようにする、事前定義済みのフィルタを提供します。

### クイック ビュー

 クイック ビュー アイコンはテーブル、特定のテーブル カラム、またはトポロジ ペイン上にマウスを移動すると表示されます。詳細を表示するページを相互起動するには、クイック ビューを使用します。Prime Collaboration Assurance では、このオプションは管理タスク、レポート、または診断ビューで使用できません。このオプションは、製品を注文するときに Prime Collaboration Provisioning に使用できます。

## Prime Collaboration Assurance のグローバル検索オプション

表 A-1 Prime Collaboration Assurance のグローバル検索オプション

| 検索     | 変数  | ストリングのフォーマット例                                 | 例外および使用できる検索文字列                                                           |
|--------|-----|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| Phone  | DN  | 10002 1000* 100* 1* *0002                     | 英数字、ダッシュ、ピリオド、およびアンダースコア。                                                 |
|        | IP  | 10.64.101.162   10.64.101.*   *               | 英数字、ダッシュ、ピリオド、およびアンダースコア。特殊文字 % は結果を取得しません。                               |
|        | MAC | 00260bd75cf8  00260bd75cf*  00260bd*  0*  00* | ダッシュ、ピリオド、アンダースコアは使用できません。英数字および空白（スペースバー）文字は使用できます。                      |
| Device | IP  | 10.78.22.129  10.78.22.*  10.*                | 英数字、ダッシュ、ピリオド、アンダースコア、およびスペース。検索フォーマット 10.78.*.* および 10.*.*.* は結果を取得しません。 |
|        | DNS | cussmtest-15.cisco.com                        | ドメイン名が解決可能でない場合は、IP アドレスが検索結果に表示されます。                                     |

表 A-1 Prime Collaboration Assurance のグローバル検索オプション

| 検索           | 変数   | ストリングのフォーマット例                                               | 例外および使用できる検索文字列                                |
|--------------|------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| Location     | Name | US-Texas  US* *                                             | 英数字、ダッシュ、ピリオド、アンダースコア、および空白文字（スペースバー）は使用できません。 |
| TelePresence | IP   | 10.78.22.77  . <br>10.78.22.* <br>10.78.*.* <br>10.*.*.*  * | アンパサンド（&）および空白（スペースバー）は使用できません。                |



(注)

グローバル検索オプションの MAC アドレスを使用して電話を検索する場合は、xxxxxxxxxxxx というフォーマットを使用します。

## Prime Collaboration Provisioning のグローバル検索オプション

表 A-2 Prime Collaboration Provisioning のグローバル検索オプション

| 検索               | 変数        | ストリングのフォーマット例                                                                        | 例外および使用できる検索文字列                                                                |
|------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| Subscriber       | ID        | AASJKUser006 <br>AAS*  AA* <br>*SJKUser006  *                                        | ダッシュ、ピリオド、アンダースコアは使用できません。<br><br>英数字および空白（スペースバー）は使用できません。<br>アポストロフィは使用できます。 |
|                  | Last Name | 3242#@!#####<br>#&@!*@(3) <br>AANewRDUser00 <br>* <br>AANewRDUser* <br>*NewRDUser006 | ダッシュ、ピリオド、およびアンダースコアは使用できます。<br><br>英数字および空白（スペースバー）は使用できません。                  |
| Mac Address      | なし        | 0024C444C3C6  <br>0024*  *  *24                                                      | ダッシュ、ピリオド、アンダースコアは使用できません。英数字および空白（スペースバー）文字は使用できます。                           |
| Directory Number | なし        | \+0000057 <br>\+0000*  \+* <br>*0000*  *57                                           | 英数字、ダッシュ、ピリオド、およびアンダースコアは使用できません。空白（スペースバー）は使用できます。                            |



(注)

- グローバル検索オプションの MAC アドレスを使用して電話を検索する場合は、XXXXXXXXXXXX というフォーマットを使用します。
- より早く検索結果を取得するには、検索文字列を 3 文字以上にすることを推奨します。





## INDEX

---

### A

- Assurance および Provisioning の両方の共通ユーザの作成 [3-9](#)
- Assurance での電話機カウント [2-2](#)
- Assurance と Provisioning サーバの統合 [3-9](#)
- Assurance に使用されるポート [6-1](#)
- Assurance の globaladmin パスワード [3-12](#)
- Assurance のユーザ ロール [3-1](#)
- Assurance のユーザ ロールおよびタスク [3-4](#)
- Assurance のライセンス [2-1](#)

---

### C

- Change Password [3-12](#)

---

### G

- globaladmin [3-3](#)

---

### J

- Jobs [7-1](#)

---

### L

- LDAP サーバの設定 [3-11](#)

---

### P

- Prime Collaboration Assurance [1-1](#)
- Prime Collaboration Provisioning [1-5](#)
- Provisioning での電話機カウント [2-2](#)

- Provisioning の globaladmin パスワード [3-12](#)
- Provisioning のユーザ ロール [3-1](#)
- Provisioning のユーザ ロールおよびタスク [3-7](#)
- Provisioning のライセンス [2-1](#)

---

### Q

- qovr [6-4](#)

---

### い

- インターフェイス コンポーネント
  - クイック ビュー [A-2](#)
  - フィルタ [A-1](#)

---

### お

- オーダー、権限ロール [3-2](#)
- 音声およびビデオのエンドポイント モニタリング [1-2](#)
- 音声とビデオの Unified Dashboard [1-1](#)

---

### か

- 管理
  - ライセンス [2-1](#)
  - 管理権限ロール [3-2](#)

---

### け

- 権限ロール
  - 許可されたタスク [3-2](#)
- 権限ロールの出荷 [3-3](#)
- 権限ロールの受領 [3-3](#)

権限ロールの認可 [3-3](#)  
権限ロールの割り当て [3-3](#)  
検出ジョブ [7-3](#)

---

## こ

高度な  
権限ロールのオーダー [3-3](#)  
権限ロールの割り当て [3-3](#)

---

## し

障害管理 [1-4](#)  
ジョブ  
管理 [7-1](#)  
キャンセル [7-3](#)  
ステータス [7-2](#)  
スケジュール [7-2](#)  
シングル サインオン [3-3](#)  
診断 [1-3](#)

---

## す

スーパー管理者 [3-4](#)

---

## つ

追加  
ユーザ [3-9](#)  
ライセンス [2-2](#)

---

## て

データ  
バックアップ [6-3](#)  
復元 [6-3](#)  
デバイス インベントリ管理 [1-2](#)

---

## は

パスワード  
復旧 [3-12](#)  
リセット [3-11](#)  
バックアップ  
データ [6-3](#)  
ファイル [6-2](#)  
「復元」も参照  
履歴 [6-5](#)  
バックアップと復元 [6-1](#)

---

## ふ

ファイル  
バックアップ [6-2](#)  
復元 [6-3](#)  
復元  
データ [6-3](#)  
「バックアップ」も参照

---

## ほ

ポリシー権限ロール [3-2](#)

---

## ま

マッピング、ロールおよびタスク [3-4](#)

---

## め

メンテナンス権限ロール [3-2](#)

---

## ゆ

ユーザ  
追加 [3-9](#)  
パスワードの復旧 [3-12](#)

- ユーザ アカウント [3-3](#)
  - ユーザのインポート [3-9](#)
  - ユーザの削除 [3-11](#)
  - ユーザの詳細の編集 [3-10](#)
  - ユーザの追加、編集、削除 [3-9](#)
- 

## ら

- ライセンス
    - 詳細 [2-2](#)
    - 追加 [2-2](#)
  - ライセンス カウント [2-2](#)
- 

## り

- リポジトリ
    - FTP [6-2](#)
    - SFTP [6-2](#)
    - TFTP [6-2](#)
    - リスト [6-5](#)
  - リポジトリの作成 [6-2](#)
- 

## れ

- レポート [1-4](#)
- 

## ろ

- ロールおよびタスク、マッピング [3-4](#)



©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>